

桜花学園大学／桜花学園大学大学院 教学マネジメント編制方針

予測困難な時代を生き抜くことのできる自律的な学修者を育成するには、学修者本位の教育への転換が必要です。そのため、桜花学園大学（以下、本学）では教学マネジメントという考え方を重視し、以下の1～5の取り組みを実施します。

1 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

本学では、学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証としてディプロマ・ポリシー（以下、DP）を具体的かつ明確に設定します。

2 授業科目・教育課程の編成・実施

- (1) 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的・組織的に教育課程を編成します。
- (2) 授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について検証します。
- (3) 密度の濃い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、同時に履修する科目数の絞り込みを検討します。
- (4) 学生・教員の共通理解の基盤や成績評価の基点として、シラバスには適切な項目を盛り込みます。

3 学修成果・教育成果の把握・可視化

- (1) 一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスとともに説明できるようにするとともに、DPの見直しを含む教育改善にもつなげてゆくため、複数の情報を組み合わせて多元的に学修成果・教育成果を把握し可視化します。
- (2) 大学教育の質保証の根幹、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として成績評価の信頼性を確保します。

4 教学マネジメントを支える基盤（FD・SD、教学IR）

- (1) DPに沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義します。
- (2) 対象者の役職・経験に応じた適切かつ最適なFD・SDを、教育改善活動としても位置付け、組織的・かつ体系的に実施します。
- (3) 教学マネジメントの基礎となる情報収集基盤である教学IRの学内理解や、必要な制度整備・人材育成を促進します。

5 情報公表

- (1) 本学は学修者本位の観点から教育を充実するため、学修成果・教育成果を自発的・積極的に公表します。
- (2) 地域社会や産業界、大学進学者といった社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を図るため情報公表を重視します。
- (3) 積極的な説明責任を果たすことで、社会からの信頼と支援を得るという好循環の形成を目指します。